

千葉商工会議所景気動向調査

平成 29 年 2 月調査結果

平成 29 年 2 月

千葉商工会議所

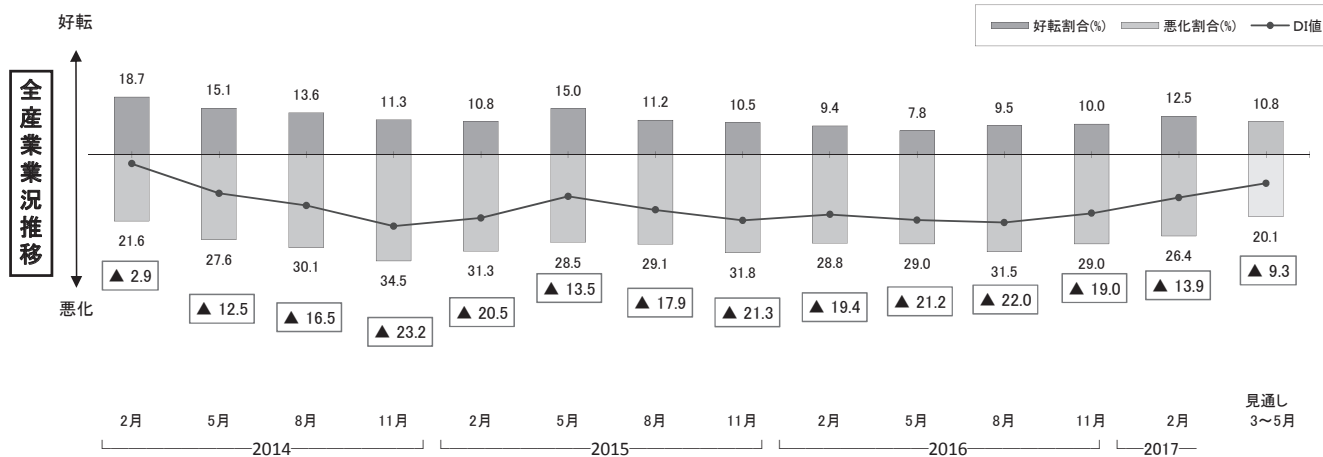
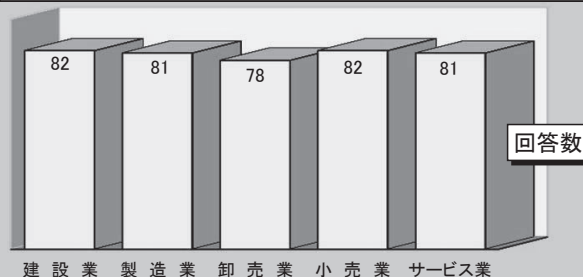
千葉商工会議所景気動向調査 ……平成29年2月調査結果報告……

調査期間：平成29年2月13日(月)～2月24日(金)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 404社 回答率 80.8%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



【全体の特徴】

(▲はマイナス)

業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成28年11月、以下同じ)と比較して、卸売業・サービス業が下降し、建設業・製造業・小売業が上昇した結果、全産業合計DIは5.1ポイント上昇して▲13.9となり、2期連続の改善となった。

また、向こう3ヶ月(3月～5月、以下同じ)の先行き見通しは、全ての業種が上向き見込みとなっており、全産業合計DIは現状より4.6ポイント上昇の▲9.3となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、建設業・卸売業・小売業が下降し、製造業・サービス業が上昇した結果、全産業合計DIは1.3ポイント上昇して▲16.2となり、3期連続の改善となった。

また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、全産業が上昇する見込みとなっており、全産業合計DIは現状より10.9ポイント上昇の▲5.3となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、小売業・サービス業が下降し、建設業・製造業・卸売業が上昇した結果、全産業合計DIは1.8ポイント上昇して▲18.7となり、2期ぶりの改善となった。

また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、全ての業種が上昇する見込みとなっており、全産業合計DIは現状より7.1ポイント上昇の▲11.6となっている。

仕入単価DIは、2期連続で悪化。原材料・燃料価格の上昇等によるものと見られる。

従業員DIは、3期連続で上昇しており、人手不足の影響が拡大している。

資金繰りDIは、3期連続の改善となっているものの、長期的には横ばいとなっている。

全体を総括すると、業況DIが2期連続の改善となり、製造業を中心に回復の動きが見られる。一方で、従業員DIは3期連続で上昇しており、人手不足の影響が拡大している。仕入単価DIは2期連続で悪化しており、原材料価格の高騰等に関する声が複数寄せられている。先行き見通しでは、全ての業種で改善が見込まれている。

【調査結果のポイント】業況DIが2期連続で改善し、製造業を中心に回復の動きが見られるものの、DI値は依然としてマイナスであり、また、人手不足の影響も拡大している。先行き見通しでは、全ての業種で改善が見込まれている。

景気動向調査は インターネットで詳細をご覧いただけます。
<http://www.chiba-cci.or.jp/>

【全産業】

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは12.2ポイント上昇して▲9.8に、売上DIは11.4ポイント下降して▲26.0に、採算DIは2.1ポイント上昇して▲16.1となった。売上DIは3期ぶりの悪化、業況DIは2期連続、採算DIは2期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「東京オリンピック開催に至るまでは、景気上向きの予想」「物価、人件費等が上がっている様子」などの声があった。

・製造業

前回調査と比較して、業況DIは17.7ポイント上昇して3.8に、売上DIは24.0ポイント上昇して0.0に、採算DIは8.0ポイント上昇して▲18.5となった。業況DIは2期連続、売上DIは2期ぶり、採算DIは4期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「受注量が大幅に増え、それに見合う人材（技術者）が不足」「オリンピック景気のお蔭で順調」などの声があった。

・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは2.6ポイント下降して▲28.9に、売上DIは3.3ポイント下降して▲27.3に、採算DIは6.7ポイント上昇して▲19.8となった。業況DIは2期ぶり、売上DIは2期連続の悪化、採算DIは2期連続の改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「個人消費の低迷」「仕入れ値の急騰」「専門小売店の減少は止まらない」などの声があった。

・小売業

前回調査と比較して、業況DIは6.7ポイント上昇して▲18.3に、売上DIは4.4ポイント下降して▲23.1に、採算DIは5.6ポイント下降して▲24.4となった。売上DIは4期ぶり、採算DIは2期連続の悪化、業況DIは2期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIはは全て現状より上向くとの見方になっている。

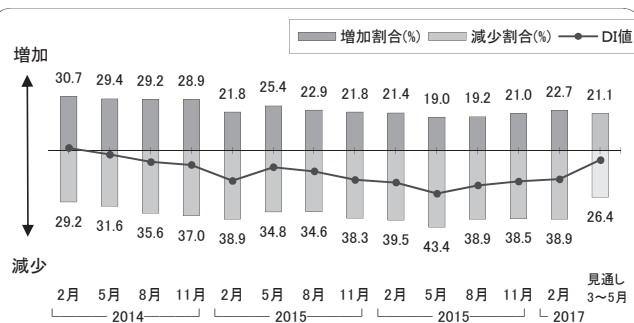
調査回答企業からは、「人の募集をかけているがなかなか難しい」「若手営業戦力の確保」「採用活動が厳しい。募集を出しても望む人材が来ない」などの声があった。

・サービス業

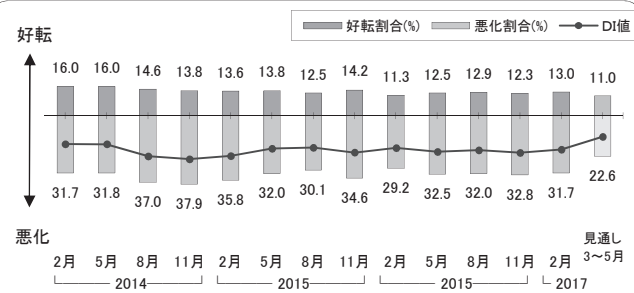
前回調査と比較して、業況DIは9.7ポイント下降して▲17.3に、売上DIは1.4ポイント上昇して▲4.9に、採算DIは2.3ポイント下降して▲14.8となった。業況DIは3期ぶり、採算DIは4期ぶりの悪化、売上DIは2期連続の改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「（最低賃金が引き上げられたため）パート、アルバイトの賃金見直し（増）予定」「インバウンドの減少により、宿泊部門の収益減少が予想される」などの声があった。

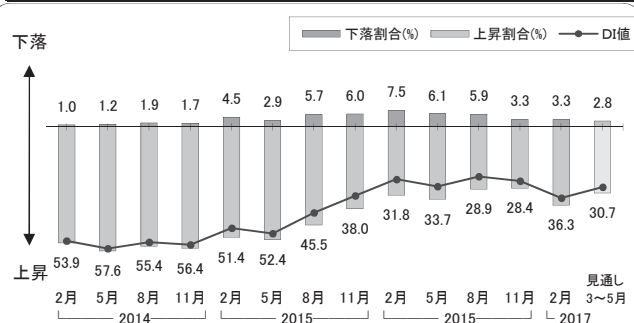
売上推移



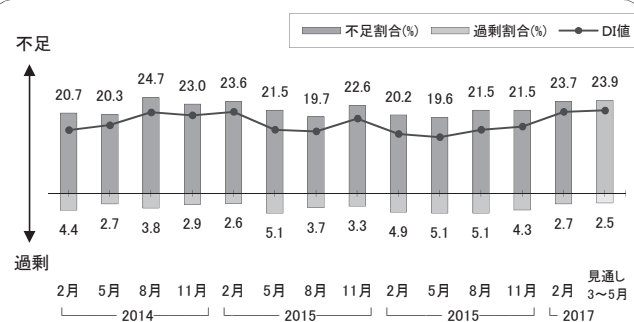
採算推移



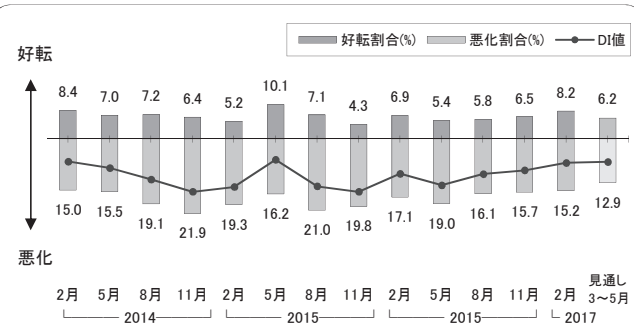
仕入単価推移



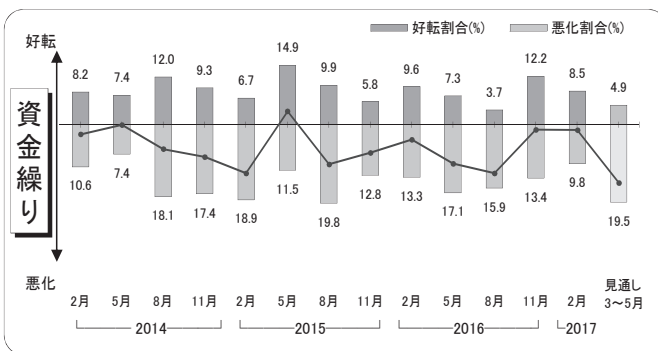
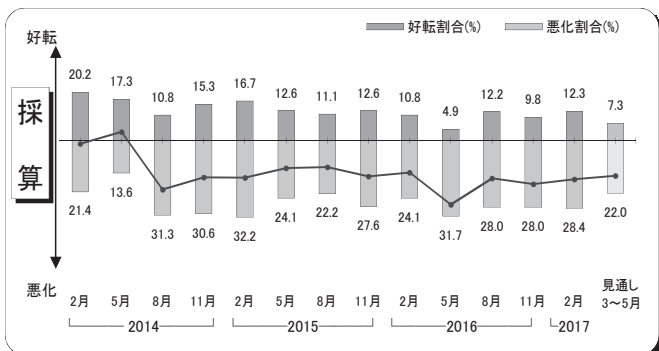
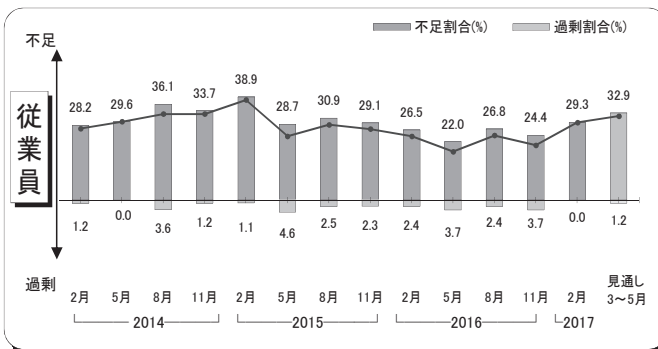
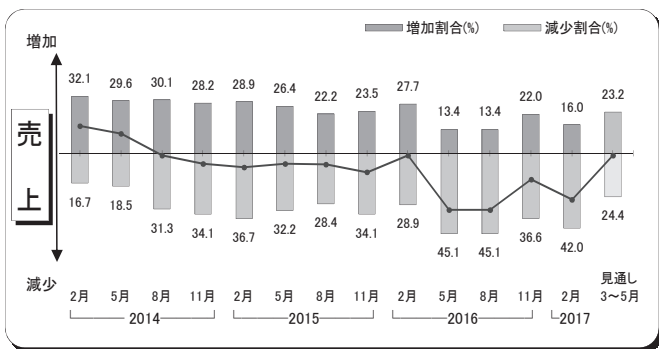
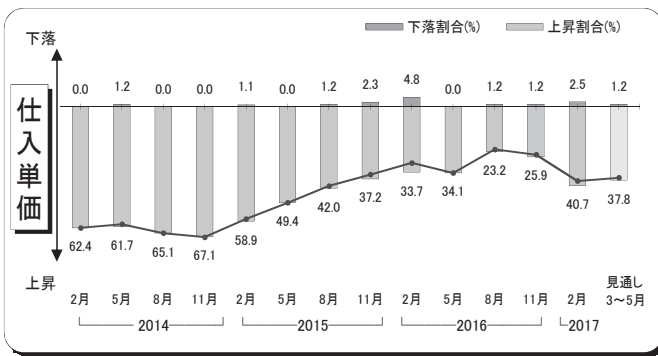
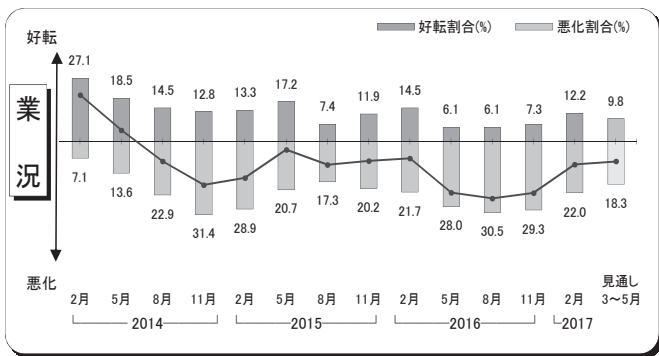
従業員推移



資金繰り推移



【建設業】①

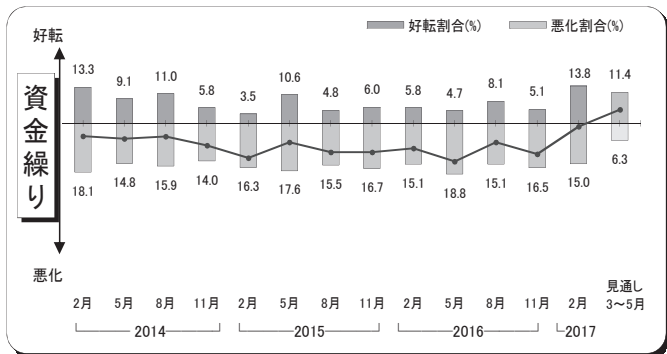
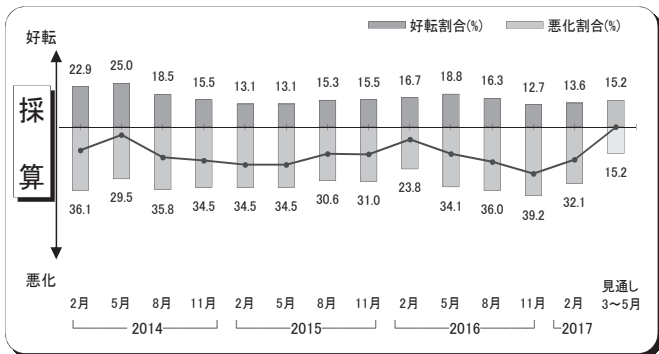
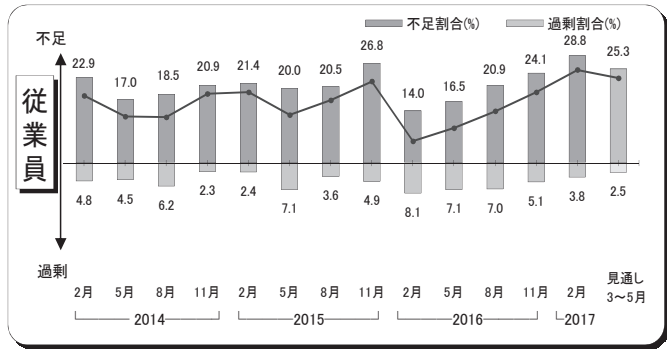
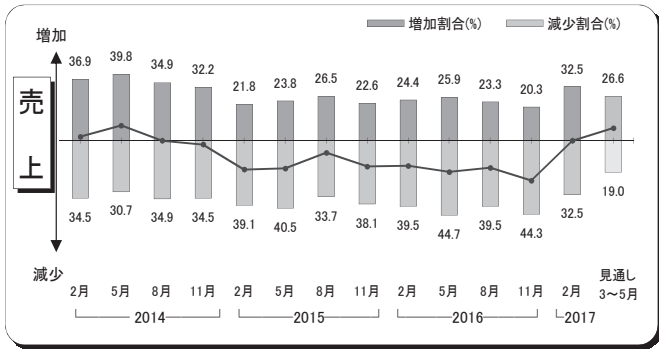
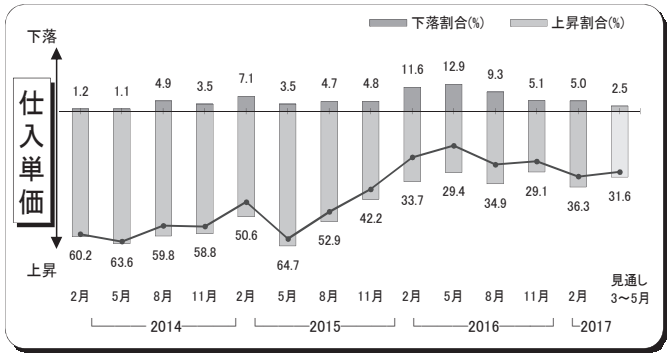
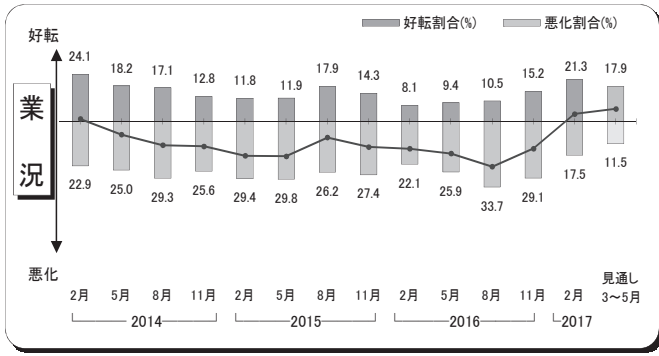


【建設業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

土木建築工事業	人材の不足、工事業業者・職人の不足、業界の競争の激化等、コストの上昇。
土木建築工事業	引き合いは多くなって来ている感があるか？物価、人件費等上がっている様子。全体的に動きがある様に思う。
土木建築工事業	下請け間競争は特に厳しい。
土木建築工事業	生産性向上への取り組み。
土木建築工事業	平成 29 年 4 月より公共工事・ゼネコン等での従事する作業員は社会保険の加入者でないと作業不可の条件があります。（当社及び一時下請けは加入している）この建設業界を長年支えている作業員（派遣）をどのように加入させるのか。加入出来なければ、この人材は使用できないのか。現実には 4 月より、いわゆる野帳場では、わからない為いいのか？施工会社の客先によって、加入してなくてもわからない為仕事が出来ると思われる等、現実はどうなるのか、もう少し具体的にはっきりとしていただきたいと思います。
土木建築工事業	業況が悪化する傾向は、変わりません。4 月 1 日以降、全員社会保険加入後の利益確保が当面の課題です。
土木建築工事業	まだまだ人手不足です。なかなか利益が上がらない。
造園工事業	銀行の担当やルート営業の者に最近元気のある会社はどこか思い当りますかと聞いても特に無いと言われます。情けないことだが、自分がいる業界が今後、若者達になりたい仕事になるような努力をしなければと思いつつ、人材不足を嘆いている今日この頃です。
とび工事業	賃上げは今年度行った。但し、売上が減少したため、資金繰りが苦しくなった。先行きも不透明な為、売上増を見込めない状況である。
金属製建具工事業	建設業界は、東京オリンピック開催に至るまでは、景気上向きの予想。一時的な人手不足が懸念されている。千葉県内の公共工事発注においても、当社が係る工事が増えていく見込み。
はつり・解体工事業	人手不足。
管工事業	社員募集のチラシを作成しても反応なし。
管工事業	人手不足と材料費等の値上げがコスト高となる。コスト高となる額を単価に加えて受注できるかは不透明感がある。負担がどのようになるかが今後の課題となる。
管工事業	スーパーゼネコンを中心に過去最高益を更新し、当社の東京も利益は上がっているが、東京一極集中の反動で千葉県は案件が減り、ゼネコンも東京へシフトしてきている。圏央道・外環の開通を見込み、物流施設は活況であるが、物流は管工事業があまりないので状況は苦しい。それでも東京は好調であるので、今期の利益が目標以上であれば一時金の増額を検討している。
冷暖房設備工事業	事業承継において自社株の承継は、最重要事項の一つである。換金性のない非上場株式を課税対象とする現行法制のままでは、後継者不足の中小企業にとって、より一層事業承継を困難にしていると思う。
冷暖房設備工事業	受注の不確定要素が強い為、楽観できない。ベースアップした場合、一時金等での調整が必要と思うので、判断は保留にしました。
給排水・衛生設備工事業	暮らしに密接な商売柄、先行き不安の声がお客様から聞かれ、需要の伸びは少ないと思われまます。

【製造業】①

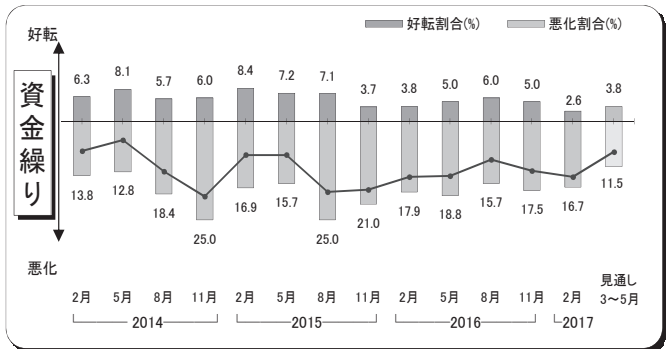
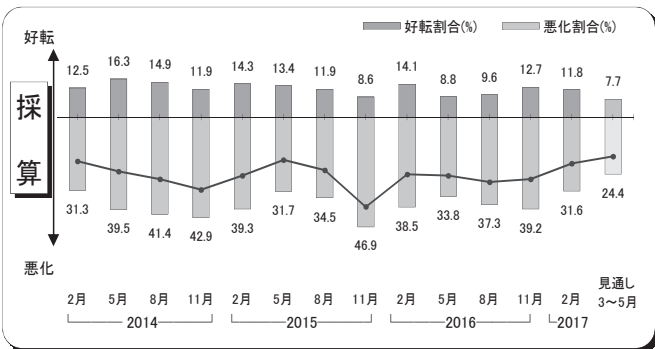
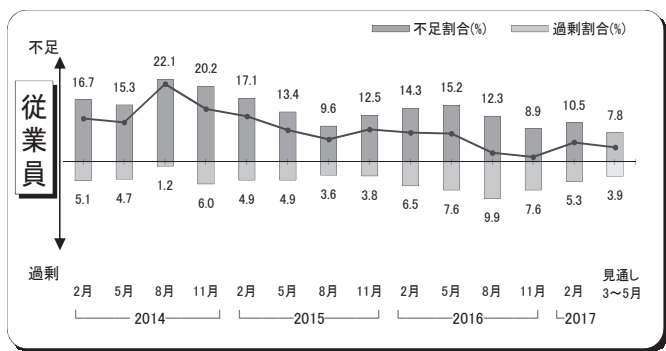
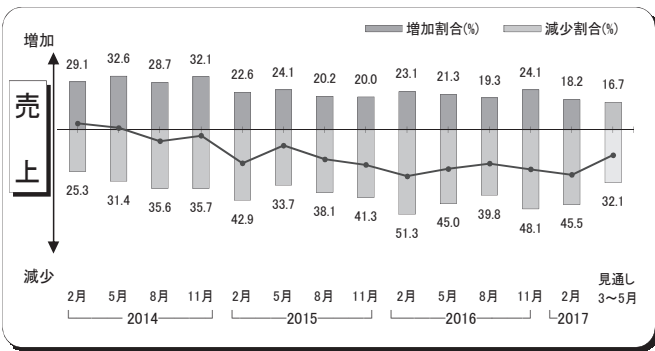
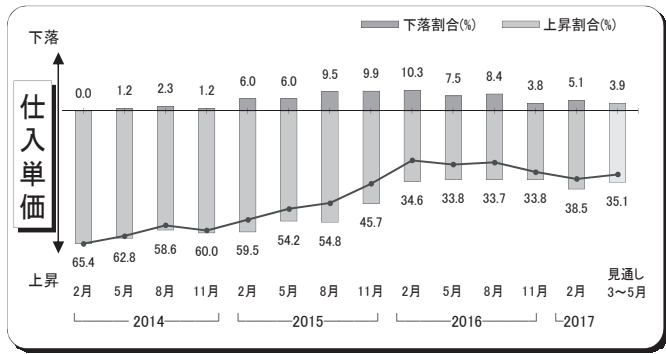
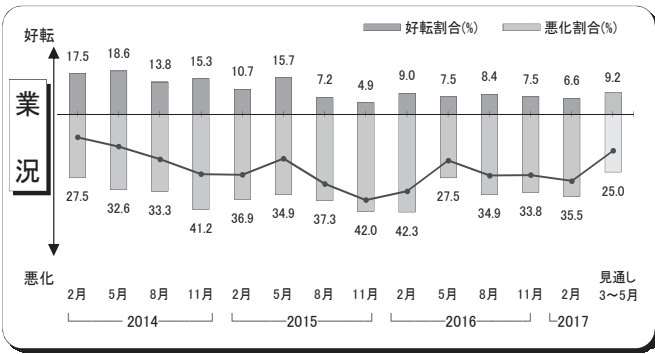


【製造業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

パン製造業	従来からの取引先の売上縮小が続き、取引先の減少にもなっている。理由は C.V.S の店舗が駅の売店や病院の売店に進出して、従来からの売店は閉店をしている。新業態の取引先との取引の拡大と新しい販路の拡大を目指している。景気は厳しくなっていると感じられる。
コンクリート製品製造業	年度末は繁忙期のため、今年もこの時期は昨年並みに売上が伸びている。ただ一年を通してはとても波があり、先が読み通しづらい。原材料の値上げもあり、賃上げへなかなか反映できていない。昨年は一時金として増やした。現時点では未定。
建築用金属製品製造業	弊社は鋼材を加工して販売している会社です。鋼材価格の急激な値上がりにより、お客様への販売価格への転嫁をお願いしていますが、なかなか鋼材値上がりに追いつかず、損益は急激に悪化している状況です。
建設用金属製品製造業	受注量が大幅に増え、それに見合う人材（技術者）が不足している。この先も良い状況が続く見込みであり、人員確保が急務になっている。
製缶板金業	原材料の高騰が懸念される。
金属製品製造業	半導体装置メーカーの好調により、売上増（約 30%）。今後 3 年間は安定受注、売上が見込める。
はん用機械・装置製造業	弊社は自動化・省力化メーカーだが、年々短納期かつ時期的に集中する傾向が強くなっている。
建設機械・鉱山機械製造業	オリンピック景気のお蔭で順調です。
金属工作機械製造業	建材が少し動いてきました。新規事業による売上がある為、決算（4月）は増える見込みです。来期は大いに期待できます。
生産用機械・同部品製造業	相変わらず景況感は停滞気味、仕事も人も少ない。下請加工業界は、長期低落傾向にあり静かに企業淘汰が進んでいる。
生産用機械・同部品製造業	今後は見えない無駄な出費を減らしていくかが課題です。
理化学機械器具製造業	有機 EL パネル、半導体 DRAM の設備投資の情報が出ているが、まだまだ電子産業業界の先行き見通しは不透明である。
集積回路製造業	リーマンショックの経常赤字が有り、（これまで）社員に一時金の支給が出来なかったが、冬の一時金を支給出来たことは経営者として嬉しかったです。今期も昨年のように業績が良かったら一時金を増やしたいと考えていますが、アメリカ大統領の政策により半導体はどの様になるか、また、為替の動向も見当がつかないのが本音ですが、今年も昨年に近い数字はあげたいと努力しています。

【卸売業】①

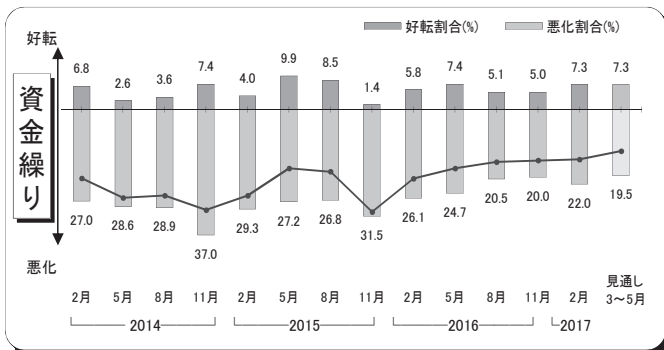
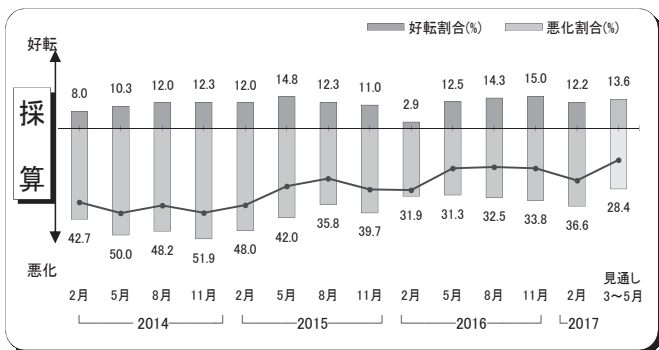
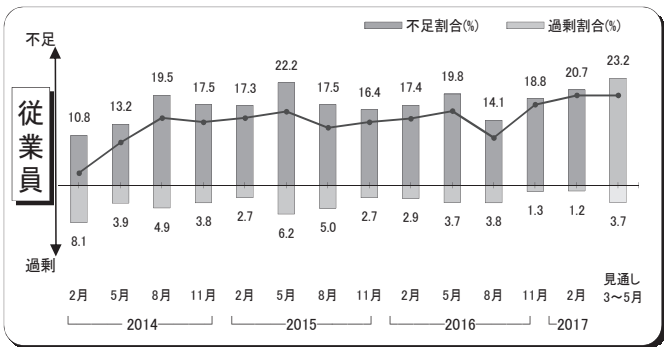
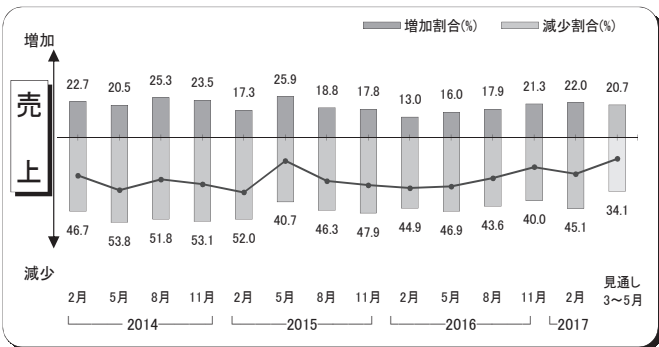
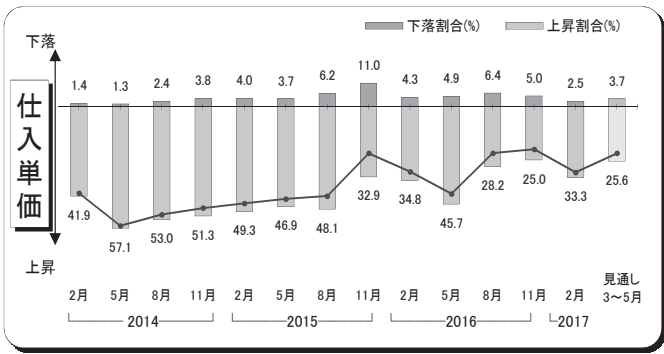
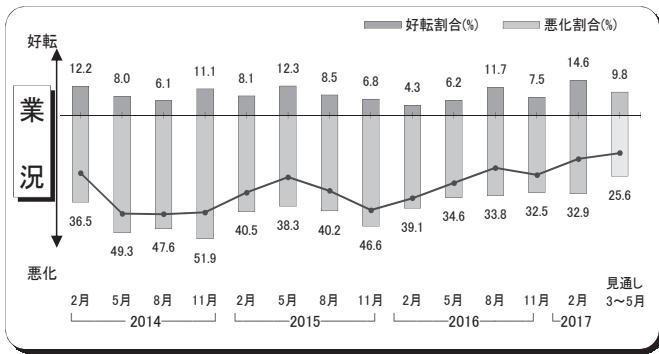


【卸売業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

食料・飲料卸売業	個人消費の低迷。卸売業者抜きのメーカーと小売業の直接取引。仕入価格の上昇。天候異変による原材料の値上げ、また原料不足により定番品の廃盤、及び休止等により、なかなか利益改善が図れない。
食料・飲料卸売業	<p> 外食産業の業績悪化の理由として、団塊の世代が定年期を迎えた後に社用的喫食者が減少したことが大きな要因とも思われます。また、外食から内食も影響。全体的に喫食者数減少に対し、外食企業は生き残りを掛けて飲食店の多業態化を争うように増加させていることから「10対3」が「3対10」。以前は、10人が3つの店舗を選択していたが、今は3人が10店舗を選択しているようなものです。外食産業の不安は募るばかりです。弊社は対策として、独自の特殊製法による食品開発、海外事業、異業種との取組に力を入れ業務拡大を図ります。 </p>
鉄鋼製品卸売業	<p> ここ数カ月、度重なる仕入れ値の急騰になかなか販売単価に転嫁出来ずに逆ザヤとなってきた。海外市況に浸透する迄の時間差もあり、急ピッチでの販価是正、相場上伸が迫られている状況です。また、非常に入荷量が不足し、無い物高の様相を呈し、益々厳しい状況であります。 </p>
非鉄金属スクラップ卸売業	<p> トランプ相場で価格上昇・冬季発生減少で無い物高の様相。但し内需は増大の感じはありません。アルミ2次合金・素鋼共に前年比0.7%～1%増です。そろそろ調整があってもおかしくは無いような気がします。今後の市況動向としては、乱高下を繰り返しながら、ジワリジワリと上昇すると思います。 </p>
化粧品卸売業	<ul style="list-style-type: none"> ・顧客の美容室の来店回数と来店客数が減少している。 ・材料が減らないので営業の売上が伸びない。 ・同業者の値引き競争もあり利益率もさがっている。 ・千葉市内で1,200件位、県内で7,000件もある美容室の数からすれば、私どもの会社の顧客数350件はまだまだ増やすことができると信じ、会社全体、営業6名が新規で頑張っているところです。
事務用機械器具卸売業	<p> 卸売業という業態で、小売店の減少は業績に直接影響しています。流通チャネルの変化に伴い、専門小売店の減少は止まりません。業種、業態の方向を変えることの試行錯誤をする中で解決策を見出して行くしかないと考えます。 </p>

【小売業】①

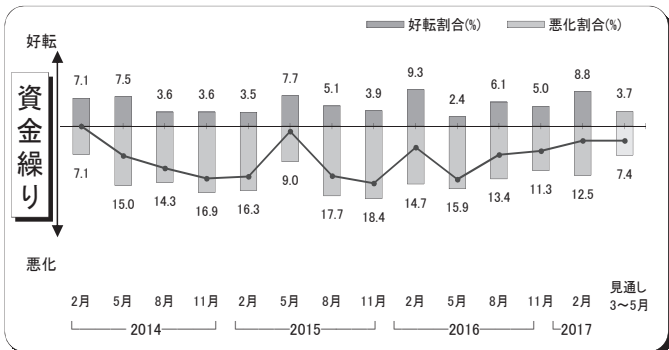
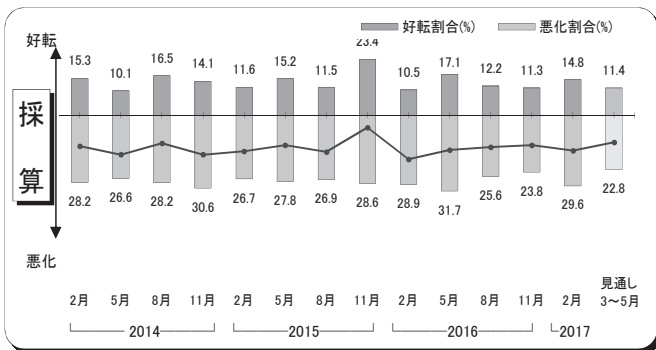
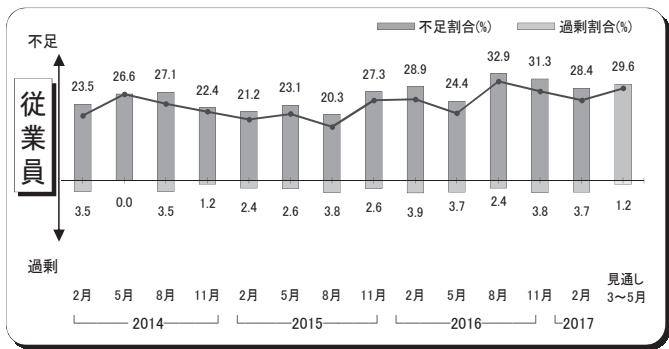
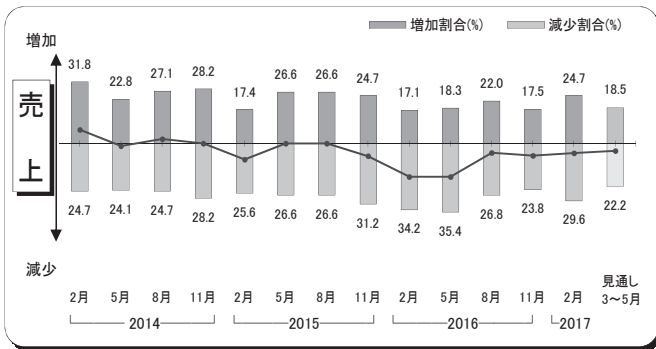
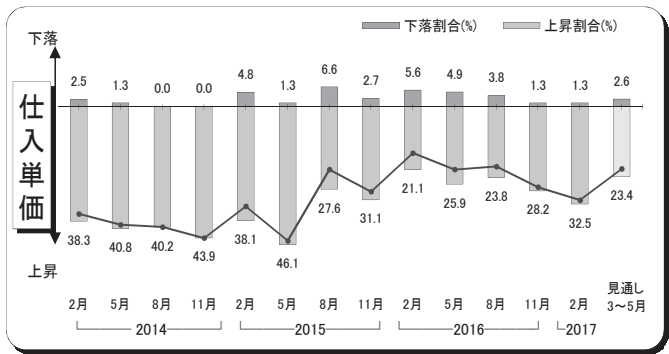
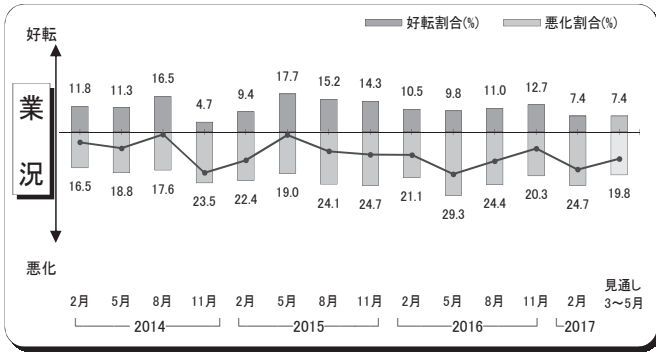


【小売業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

靴小売業	顧客アプローチの政策転換と範囲の拡大。
食料品小売業	業種的に当社の環境に変化あり。
食肉小売業	生鮮食品及び食料品の小売業は大手のスーパーが完全に千葉市内に隙間なく出店し、大手同士の安売り合戦が非常に激しく、地元の小売店は生き残っていくのが大変です。しかし、今我々3人（生鮮・青果・精肉）で大手に負けないように頑張っています。
自動車（新車）小売業	昨年、賃上げをしたため今年は予定していないが、状況により変わる可能性もある。何より人が足りないのが悩みです。
電気機械器具小売業	人の募集をかけているがなかなか難しい。
家具小売業	①インターネット通販との差別化への対応（特に価格差への説明） ②若手営業戦力の確保
医薬品小売業	弊社は売上高の60%を官公庁で占めています。官公庁は入札の為、売上の変動が激しく芳しい状況とは言えません。今後は展開に力を投入しなければ安定した業績が上げられないと思います。
医薬品小売業	業界の構造不況状態。好転見込み立たず。
調剤薬局	当店はOTC（一般用医薬品）も扱っているが、売上低下で調剤薬局となりつつあります。
書籍・雑誌小売業	入札参加の声掛けが増えてきているが、注文に繋がらず。結果、労働時間（残業）が延びるだけとなっている。
紙・文房具小売業	採用活動が厳しい。募集を出しても望む人材が来ない。人材が払底している感がある。
スポーツ用品小売業	業界は遅ればせながら競技人口を増やす取り組みをはじめましたが、ちょっと遅い感じがします。同業他社も生き残りをかけて皆必死です。一般のサラリーマンの給与増がないと難しいかもしれません。
他に分類されない その他の小売業	今までは毎年基本給10,000円以上アップしていたのですが、今年は景気が悪い ため5,000円にしました。3月より正社員1名増やします。

【サービス業】①



【サービス業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

情報処理サービス業	実感として、景気動向は良くなっていないと思う。
運輸附帯サービス業	全体的に下げ止まり感はあるが、米国大統領の政策による懸念も一時的には払拭された感がある。米国への資金回帰が一時的にあるだろうし、大きな転換期になると予想されるので、今後の動きに目が離せないと思う。国内的にはまだまだ低調が続くと思われる。雇用と景況がマッチングしていない気もする。思い切った投資が出来ない状況に変わりはない。
不動産賃貸業	千葉駅周辺の大規模店舗の閉店が昨年暮れから本年上半期に続き、自社の貸事務所へのテナントの足がますます遠のいております。
広告業	業況は上昇傾向。オリンピック景気の効果かどうかは分からない。
建築設計業	景況は厳しいまま推移している。公共案件が主力なので、毎年新年度の発注がスタートする6月頃までは厳しい状況が続く。
建築設計業	年初来仕事はそこそこあるが、人手不足のため順調に納品できなくて困っている状態である。
建築設計業	国の補正予算並びに平成29年度の予算は公共事業費の圧縮傾向が続いている。市及び県も同様の傾向ですが、地方の活性化は公共投資が一番であると思う。今後の積極的な財政出動を期待したい。
測量業	高齢化によって農村部では後継者がいなくなり、田畑の荒れ方がひどいです。土地の移動が殆ど無く、その分、仕事が減ってきております。社会の変化に真正面から向き合い、変化に対応して企業を守るよう努力しております。
旅館・ホテル	（最低賃金が引き上げられたため）パート、アルバイトの賃金見直し（増）予定。
旅館・ホテル	海外のツアー（インバウンド）の減少により、宿泊部門の収益減少が予想される。
専門料理店	業績を伸ばしたくても、労働法規が厳しくなり、人の確保や残業が難しくなるので先行きへの不安がある。政策についても色々矛盾を感じる人が多い。
すし店	天候に左右される。大風が吹いたり、冷雨だったりすると客足が遠のく。駅からは不便になっている。パルコバスの後のサービスバスは利用する人が増えている。パルコが無くなって近くの飲食店はランチ客が増えている。
喫茶店	現状の政策では小企業は廃業に追い込まれる。
ビルメンテナンス業	人手不足が顕著になっている。募集広告をだしても応募者がほとんどいない。

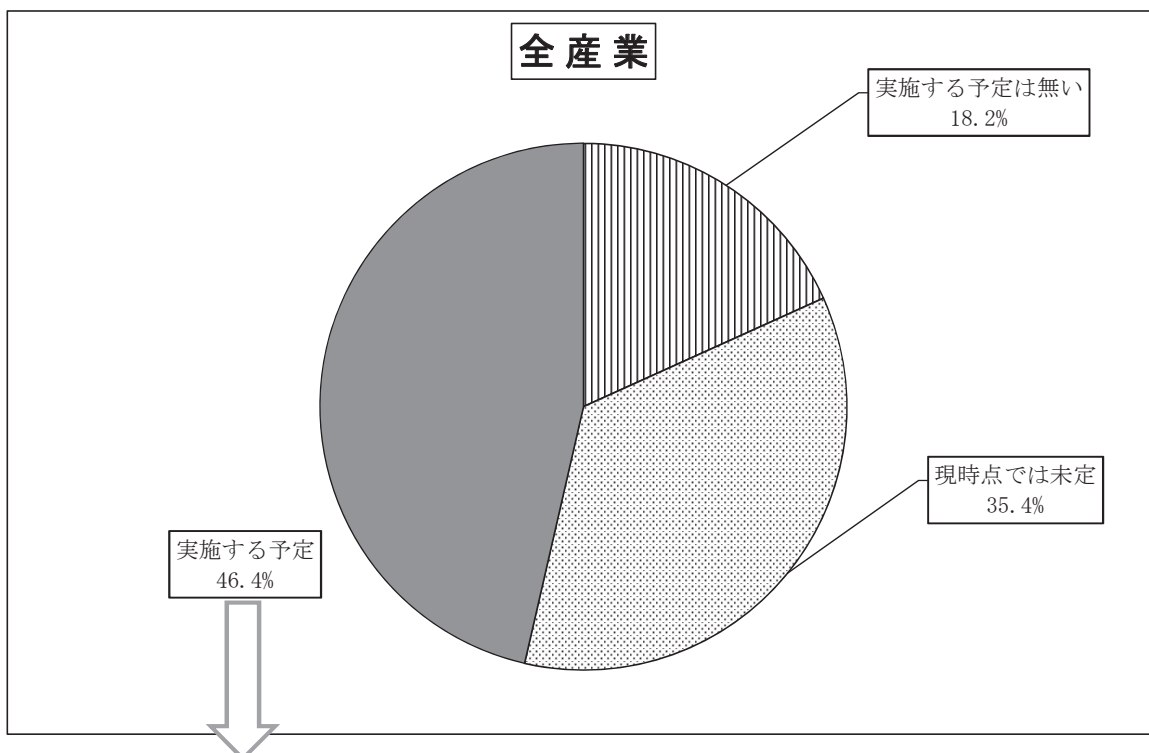
千葉商工会議所景気動向調査 …平成29年2月調査結果報告…
 (付帯調査) 集計結果

業種	全業種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
回答数	362	72	72	68	74	76

【調査結果のポイント】

- ・賃上げの実施を予定している企業は、全体の46.4%。
- ・賃上げ理由は「人材の確保・定着や士気向上を図るため」との回答が特に多い。

(1)平成29年度における賃金引き上げの実施予定について



業種別の割合

業種	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
割合	46.4%	43.2%	46.9%	35.9%	39.0%	42.7%

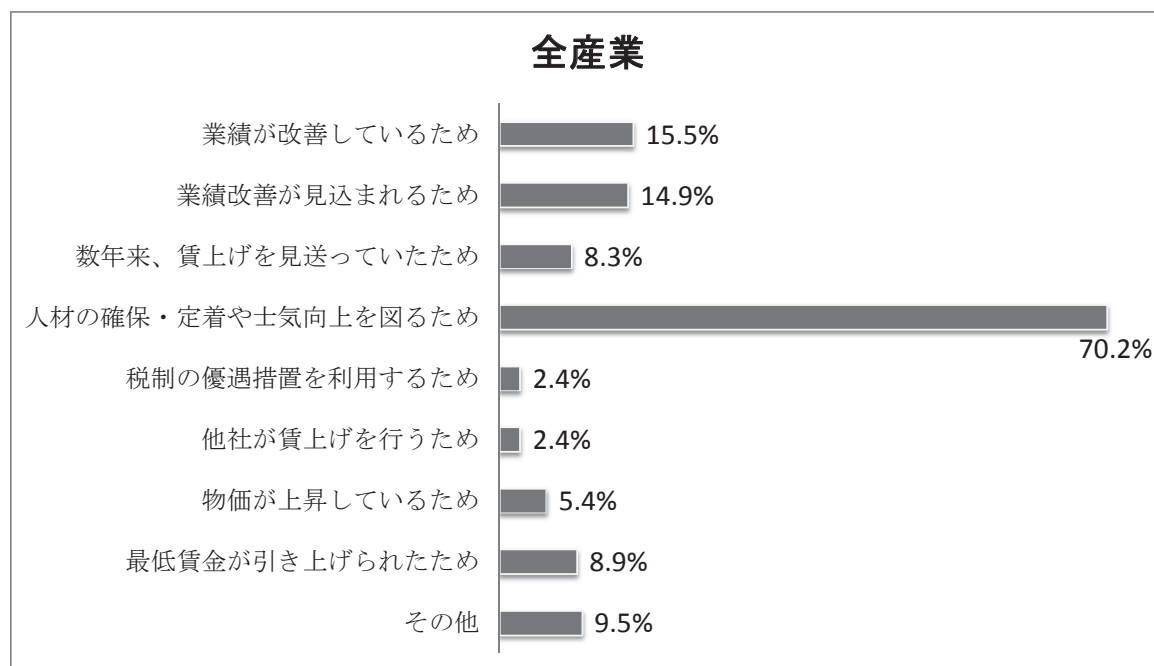
賃金引き上げの内容(複数回答可)

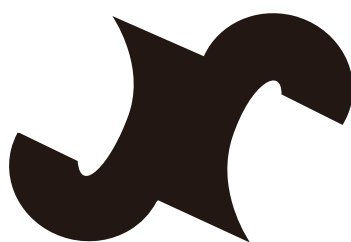
	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
定期昇給を実施する	69.6%	65.7%	65.8%	75.0%	59.4%	82.9%
ベースアップを実施する	24.4%	25.7%	31.6%	17.9%	21.9%	22.9%
手当を新設する	4.2%	5.7%	2.6%	3.6%	9.4%	0.0%
既存の手当を増額する	5.4%	0.0%	10.5%	3.6%	3.1%	8.6%
夏の一時金を増やす	10.7%	14.3%	7.9%	7.1%	18.8%	5.7%
冬の一時金を増やす	4.8%	5.7%	0.0%	3.6%	9.4%	5.7%

(2) 賃金引き上げを実施する主な理由について

(複数回答可)

	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
業績が改善しているため	15.5%	22.9%	13.2%	7.1%	18.8%	14.3%
業績改善が見込まれるため	14.9%	25.7%	21.1%	7.1%	9.4%	8.6%
数年来、賃上げを見送っていたため	8.3%	5.7%	5.3%	10.7%	18.8%	2.9%
人材の確保・定着や士気向上を図るため	70.2%	68.6%	71.1%	57.1%	78.1%	74.3%
税制の優遇措置を利用するため	2.4%	8.6%	0.0%	3.6%	0.0%	0.0%
他社が賃上げを行うため	2.4%	0.0%	2.6%	7.1%	0.0%	2.9%
物価が上昇しているため	5.4%	5.7%	2.6%	3.6%	9.4%	5.7%
最低賃金が引き上げられたため	8.9%	2.9%	7.9%	10.7%	9.4%	14.3%
その他	9.5%	2.9%	10.5%	17.9%	9.4%	8.6%





【お問い合わせ】
千葉商工会議所
総務課 企画広報室

〒260-0013

千葉市中央区中央 2-5-1

TEL: (043) 227-4101

Mail: chosa@chiba-cci.or.jp